

(4) 雇用形態の変化

世界的な景気悪化の影響を受け、国内の景気が低迷している中、本県の経済も厳しい状況が続いています。

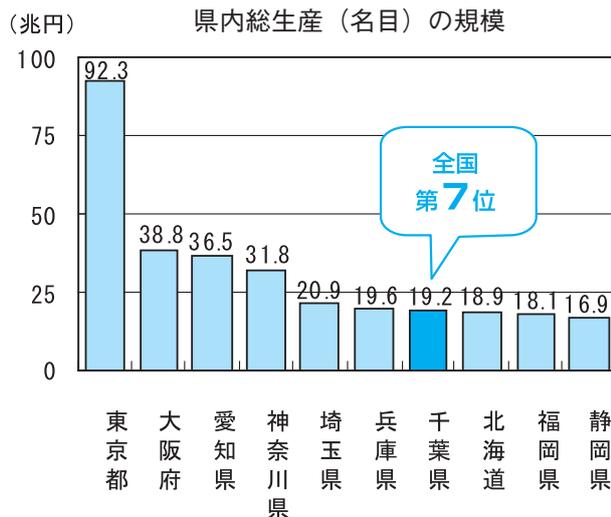
千葉県の県内総生産（名目）は、19兆2千億円で、全国規模では7位に位置しており、県内総生産（名目）の全国割合で見ると、全国の3.7%を占めています。

また、雇用形態の変化により、正規雇用者が減少する一方、パートタイム労働者や派遣労働者、契約社員等の非正規雇用者が増加しており、雇用形態の多様化により働き方の選択肢が増えることが期待される一方で、正社員との均衡を考慮した労働条件の確保等が課題となっています。

平成20年（年平均）の15～29歳の青少年の失業者数は82万人で、年齢階級で見ると、15～19歳が8万人、20～24歳が35万人、25～29歳が39万人となっています。若年者の中でフリーターやニートの数も全国的に増加しており、問題となっています。

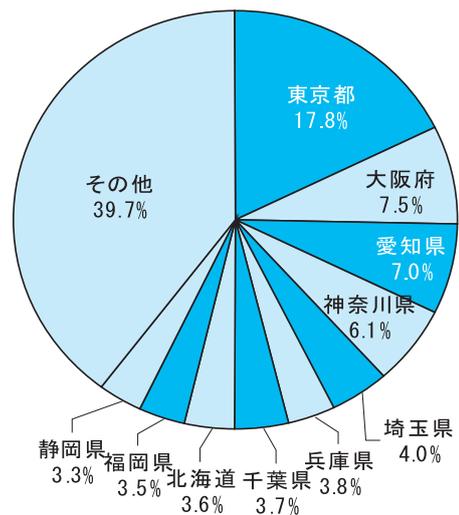
労働力人口が減少する社会において、若年労働者が正社員としての地位を得られにくく、非正規雇用者が増加していくことは、職業能力が蓄積されない若年者の増加や、所得の低い者が増えることによる少子化の進行などが危惧される状況です。

千葉県経済の姿



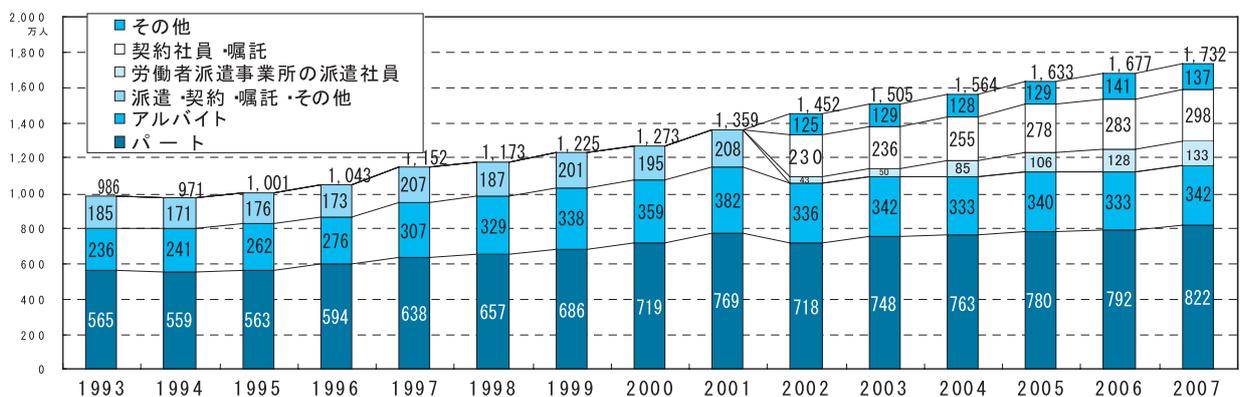
〔平成18年度県民経済計算〕（千葉県統計課）より

県内総生産全国割合



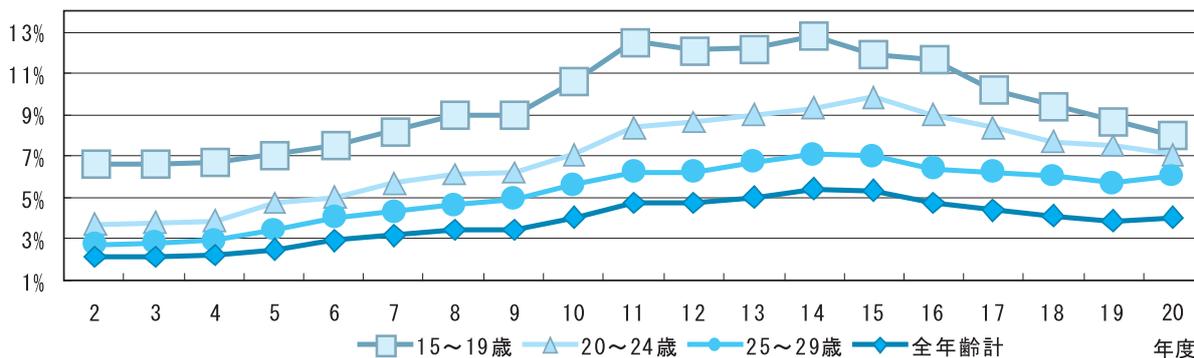
〔平成18年度県民経済計算〕（千葉県統計課）より

パート、派遣、契約社員等の推移（全国）



〔平成20年度労働力調査〕（総務省統計局）より

青少年失業率の推移



〔平成 20 年度労働力調査〕（総務省統計局）より作成

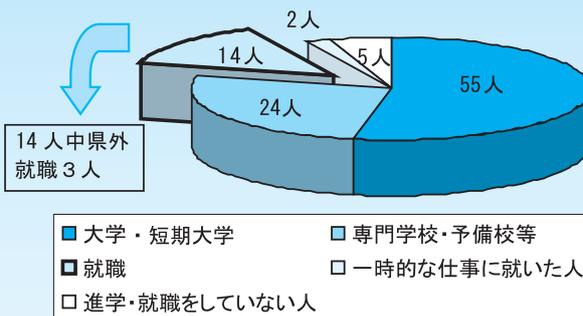
公私立高校生の進路状況を見てみると…

平成 21 年 3 月の千葉県公私立高校卒業者総数は、45,982 人です。

この卒業者を 100 人のクラスだとして、全生徒の進路状況の結果は右のようになりました。

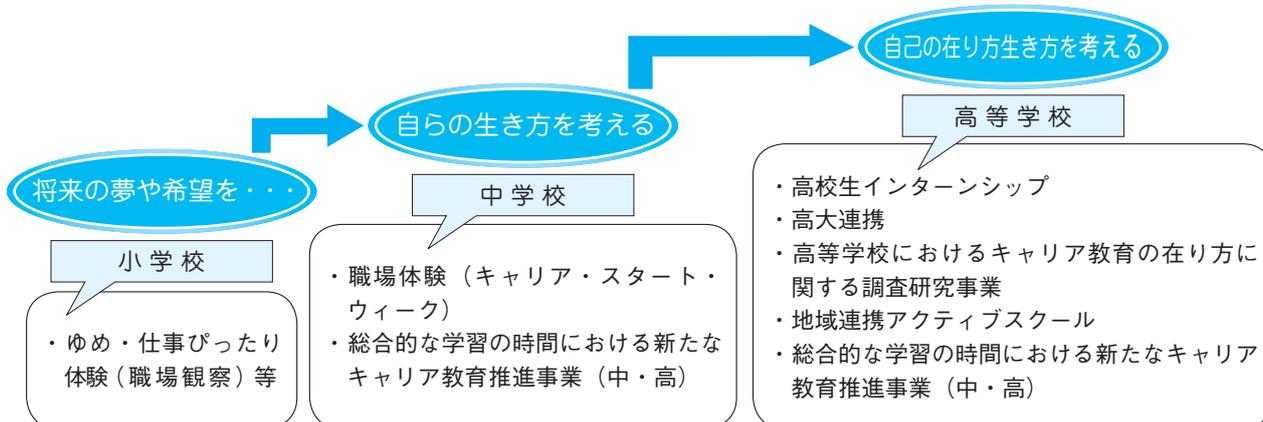
内訳は、大学・短期大学進学者は 55 人、専門学校・予備校等は 24 人、就職は 14 人、一時的な仕事に就いた人は 2 人、進学・就職をしていない人は 5 人です。

また、就職者 14 人のうち、県外就職者は 3 人となっています。



〔平成 21 年度学校基本調査〕（文部科学省）より数値作成

<参考> 千葉県における発達の段階に応じたキャリア教育の推進



(5) 情報化の進展

携帯電話やインターネットの普及拡大は、社会の情報化を急速に進め、大人だけでなく子どもまでもが、容易に必要な情報を入手し、発信することを可能にしました。

平成 20 年に文部科学省が実施した「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」によると、全国の児童生徒の携帯電話の所持状況は、小学校 6 年生で 24.7%、中学校 2 年生で 45.9%、高校 2 年生で 95.9% となっています。小学校 6 年生、中学校 2 年生では、女子の所有率が男子の所有率を大きく上回っています。

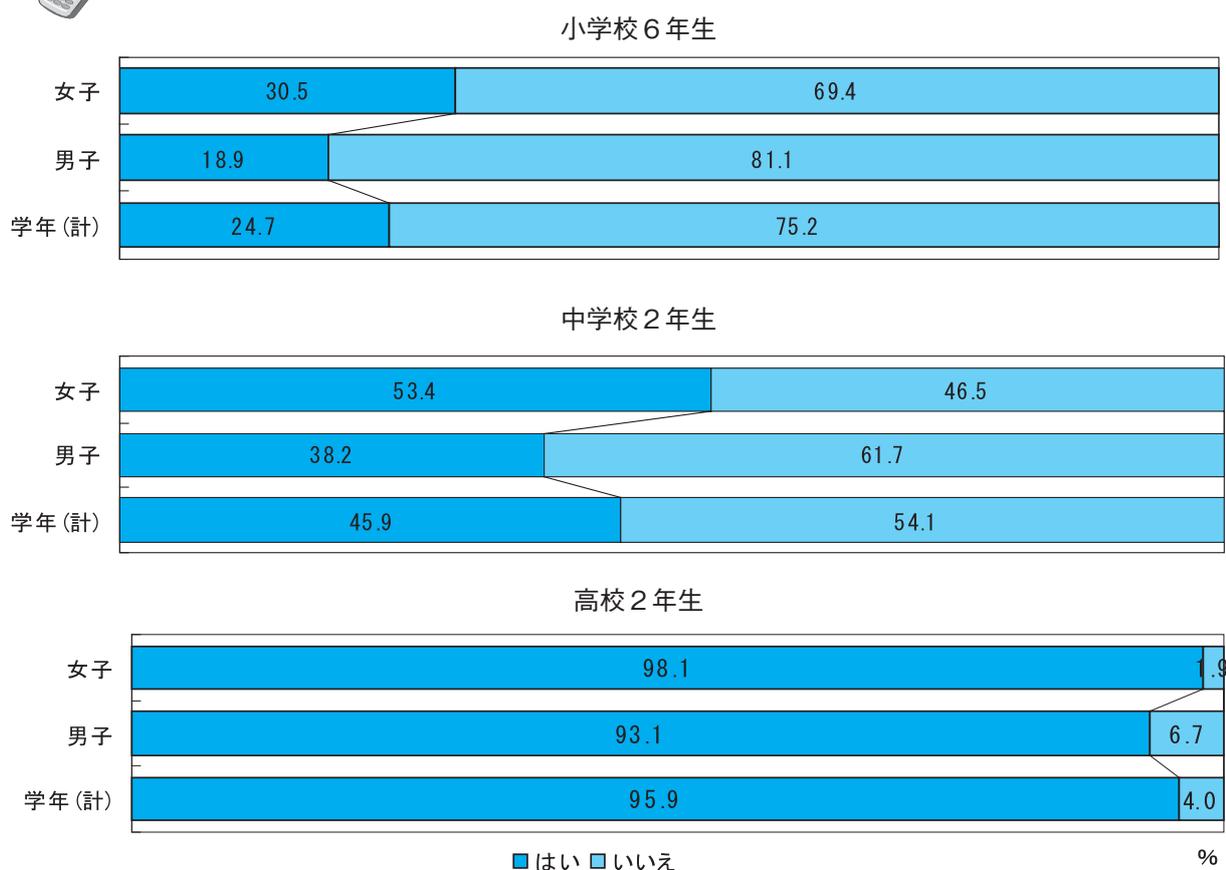
また、携帯電話で通話やメールをする本県の中学生（毎日、時々を含む）は全国に比べて高い傾向にあります。

さらに、平成 21 年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、正答率が高いグループほど携帯電話の利用頻度が少ないなど、携帯電話の使い方と学力との間には関係が認められます。

全国児童生徒の携帯電話の所持状況

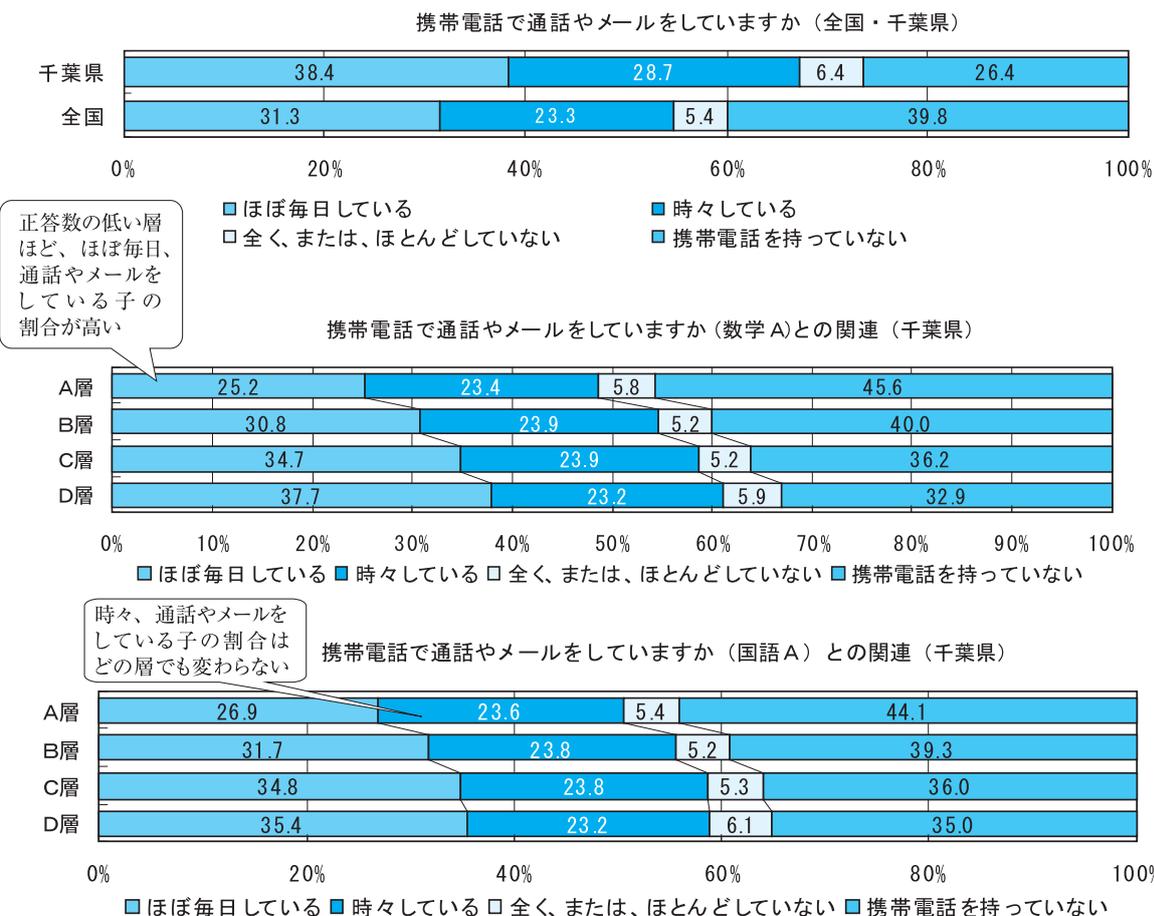


あなたは自分専用の携帯電話を持っていますか。



〔平成 20 年子どもの携帯電話等の利用に関する調査〕（文部科学省）より

中学生の携帯電話の使用状況と、全国学力・学習状況調査の結果との関連



※各層は生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。

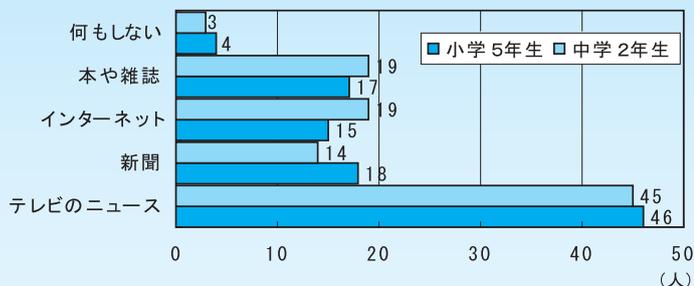
〔平成21年度全国学力・学習状況調査〕(文部科学省)より

公立小学5年生・中学2年生に「情報源」を聞いたところ……

千葉県の公立小学校5年生・中学校2年生の児童・生徒がそれぞれ100人のクラスだとして、全児童生徒に「世の中のいろいろなできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん行っていることは何ですか」と質問しました。

回答は右のようになりました。中学生では、「本や雑誌」と並んで「インターネット」が19人と同数になっています。

情報がはんらんする中で、子どもたちに利用制限も含めて、適切な利用の在り方を教えていくことが課題です。



〔平成19年度千葉県学力状況調査〕(千葉県教育委員会)より数値作成

(6) ライフスタイルの多様化

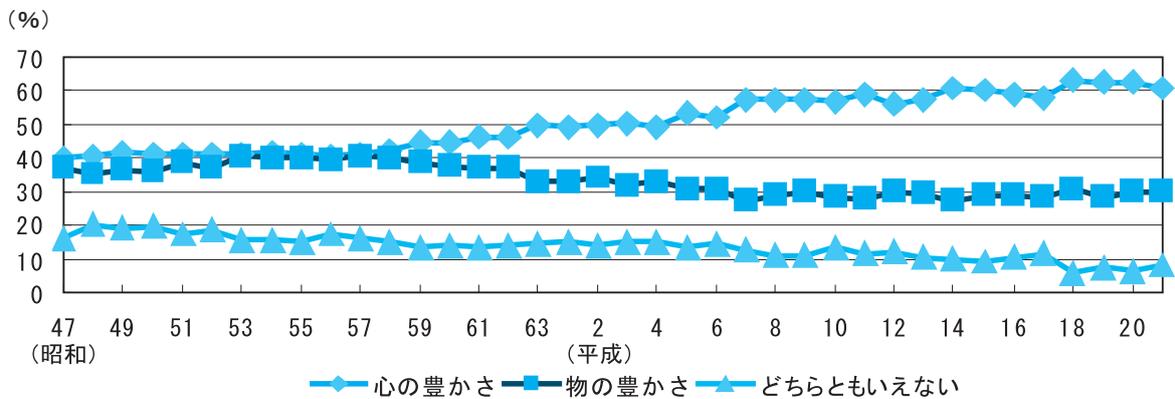
「国民生活世論調査」によると、1980年代から物の豊かさより心の豊かさを重視するようになり、年々その差は大きくなっています。

一方、人間関係の調査では、「人間関係について難しくなった」と感じる人が、全体の6割を超え、その原因として、人々のモラルの低下、地域のつながりの希薄化、人間関係を作る力の低下などが上位になっています。

また、千葉県の教員によれば、「学力低下の懸念」の原因の一つとして、インターネット・携帯電話・ゲームなどの普及や、集団遊びの減少という子どもたちの生活環境の変化を挙げています。

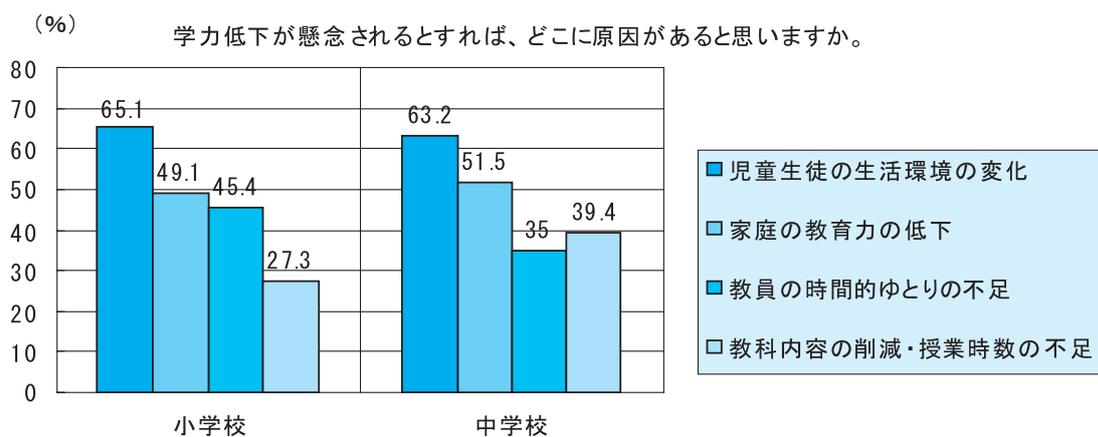
このようにライフスタイルの多様化がもたらす影響は、多岐に及んでいます。

心の豊かさを重視する割合の推移（全国）



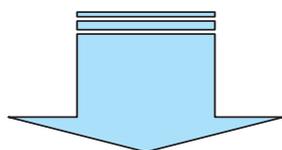
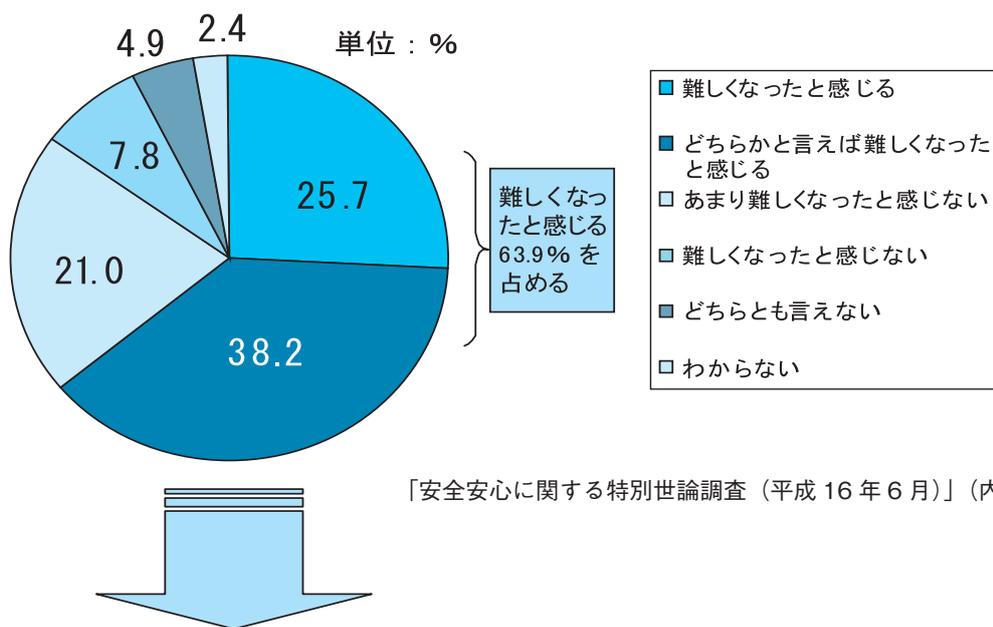
〔平成21年度国民生活に関する世論調査〕（内閣府）より

教員が考える学力を取り巻く課題（千葉県）

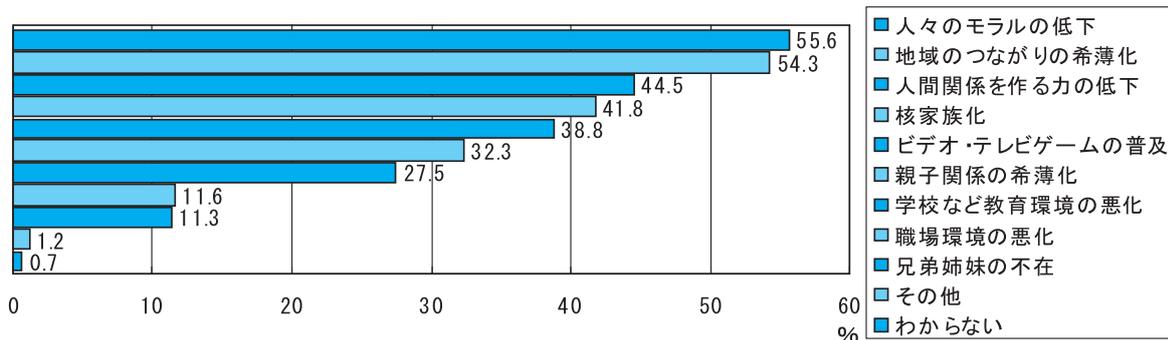


〔平成19年度千葉県学力状況調査〕（千葉県教育委員会）より

人間関係が難しくなったと感じる人の割合（全国）



人間関係が難しくなった要因（全国）



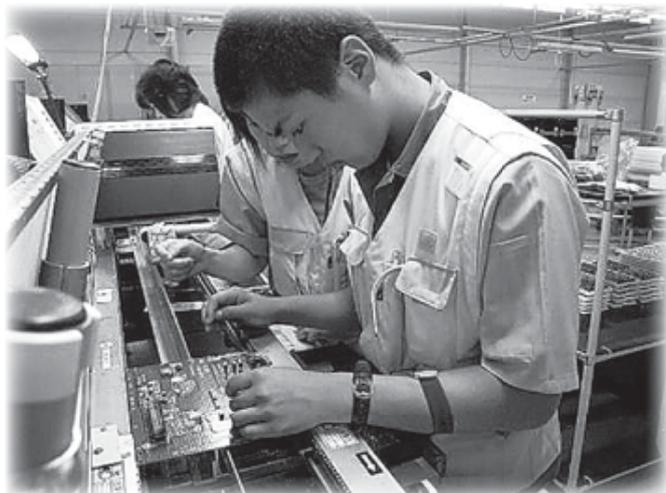
千葉県が「100人の村」だったら……

「あなたは、現在お住まいの地域に、ずっと住みたいと思いますか。」という質問に、**住みたいと答えた人は73人、県内の別の箇所へ移りたいと答えた人は5人、県外に移りたいという人が5人、県内・県外どちらでもかまわれないが移りたい人は5人、わからないと答えた人は8人、無回答が4人**でした。住みたい人は全体の約7割を数え、自分の土地や家があることや愛着を感じる、利便性などをその理由の上位に挙げています。

首都に隣接しながら、豊かな自然や長い歴史の中ではぐくまれた文化に恵まれた千葉の可能性を生かした人づくり、社会づくりが課題です。



「平成21年度第38回県政に関する世論調査」（千葉県報道広報課）より数値作成



キャリア教育先端技術体験プログラム
電気製品の組立て体験



夏休みサイエンススクール（県水産総合研究センター）



夏休みサイエンススクール
磯の生き物を観察（海の博物館）